

歴史探訪

クラブ! 其の153

History Inquiry Club

文化財課 ☎23局3635
FAX 22局3811

人々に愛されて 糟谷磯丸2

なぜ、磯丸は「村人の心を支えたのか。彼の残した歌にその理由が隠されています。特に、当時の人たちに人気が高かったまじない歌のタイトルは、庶民の日常のくらしの縮図です。

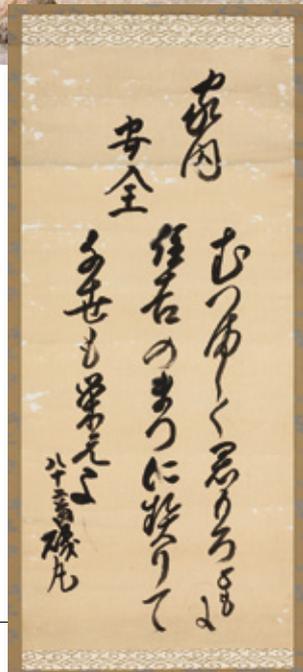
水不足、家内安全、災難よけ、病気（風邪、眼、歯、はしか、かんの虫、しゃく、水虫、婦人病、腰痛）、害虫・獣駆除、お祝い、悩み、土地の境界、いのしし除け、安産、母乳、出世な

どの
悩み
や願
いが歌
われてい
ます。



▲【上】磯丸の歌碑(いのりの磯道/伊良湖町)
【右】まじない歌(家内安全)

庶民が神に祈るような切実なものから、日常会話の中で生まれたちよつとした気になることまで、実に幅広い内容です。人々は困った揚げ句、磯丸の歌に頼ってきたのです。そして磯丸は頼まれるがまま、歌に詠んでいます。



から宮中や殿様に招かれるまでになった」「村の大火の折にも磯丸の家だけが焼けなかった」という人々を驚かす三つの事実があったからです。そこに都市伝説のような話が加わり、磯丸の神秘性はますます高まっています。

しかし、磯丸本人は、それは伊良湖神社の明神のおかげだとますます信心を深めます。そんな世間の評価も気にすることなく、マイペースで人々の頼みに気軽にこたえていくのです。医者でも心理カウンセラーでも弁護士でも、さらには神でもない磯丸がすべての願い事を解決できるはずはありません。「なぜ歌を詠むのか」という問いに、磯丸は「私を一方ならず信じてくれる人々の気休めになるように頓智で詠んでやるのでございます」とひょうひょうと答えています。気休めにすぎないとわかっ

ているにも関わらず磯丸は歌を詠み続けます。人々は、その姿に感動し、ますます人々は親しみと尊敬の念を強めていったのです。

肩肘を張らず、純粹に人々に応える磯丸。人々の心に多くのやすらぎと笑顔を与えました。この不思議な逸人、磯丸こそふるさと

の偉人だと思ふのです。しかし、磯丸にとってはこう思われることこそ不本意なのかもしれません。福の神が来るように頼まれた歌に足ることを 知ればその身がふくの神 足ることを知れたることを知れ

（増山）

今月の「表紙」

▼夜になると、市内のあらゆるこちらで鮮やかに輝くイルミネーションを見かけます。師走を迎え肌寒い日々の中で、その輝きからは時折ぬくもりを感じます。澄んだ夜の夜空と同じで、小さな星でもそれが集まれば満天の星空に変わります。市内では、将来を担う子どもたちが、星空に負けないほど輝きながら元気な姿を見せてくれています。(I)

【表紙の写真】はなとみ通り